



2023 年度

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価について

幼保連携型認定こども園における教育及び保育は、乳幼児期全体を通じて、その特徴及び保護者や地域の実態を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とし、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものとなるように努めなければなりません。

幼保連携型認定こども園あがた幼稚園では、保育・教育理念として

○ 『笑顔で優しく しっかり抱いて ゆっくりおろして歩かせよ』

(愛情をいっぱいそそぎ、個々をしっかりと見つめふれ合い、自立へと心豊かに生きる力を育む)

○ 自ら選択し、工夫して努力し、責任をもって取り組む、生きる力を育てる。

○ 自分と周りの人を大切にし、自分の心に挑戦していく、きらり輝いた心をもった子どもたちを育てる

を目指して様々な活動に取り組んでいます。

その活動の質を高め充実させていくために、上記のことを踏まえ、2023 年度自己評価として幼保連携型認定こども園保育・教育要領に基づく自己評価を行いました。

評価の目的として

- (1) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、こどもの最善の利益を実現するために行います。
- (2) 現在行っている教育・保育を様々な観点から見直す手段とします。
- (3) 現状を把握し、次の手立てを考え、実行につなげます。
- (4) 一つ一つの項目の意味を自園の立場から理解し、問い直し、さらなる教育・保育・子育て支援等の質の向上につなげます。

評価の方法として

- (1) 子どもを評価するのではなく、保育者自身の保育または園の状況の評価します。
- (2) 「評価項目」で描かれた姿や子どもが育つよう、実際の保育や環境や体制がどのようにデザインされて実施されているかを評価します。
- (3) 5段階評価をし、データグラフでまとめます。
- (4) 以下の7つの項目にわけてまとめる。
 - ① 乳幼児期の園児の保育
 - ② 満1歳以上満3歳未満の園児の保育
 - ③ 満3歳以上の園児の教育及び保育
 - ④ 教育保育の実践に関わる配慮事項
 - ⑤ 健康及び安全
 - ⑥ 子育ての支援
 - ⑦ 職員の資質向上

別紙に自己評価の報告をさせていただきます。職員間でミーティングを重ね、子どもたちの未来のために私たちが取り組んでいくべきことを、今後さらに話し合い考えていこうと思います。

「自己評価」の結果を基に、園児ひとり一人の理解を深め、園の職員の質と、子どもたちへの保育・教育の質を更に高めていきたいと思っています。

2023 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和6年3月4日

法人名

園名

吾田学園

あがた幼稚園

まとめ

全体平均

4.02

第2章第2節 乳児期の園児の保育	園児一人一人の存在を大切に、欲求や感情をしっかり受け止めながら応答的に関わることの大切さを改めて感じた。また、言葉を得る大切な時期なので、子どもが何かを伝えようと指さしや表情に丁寧に関わり人との関わりが心地良いことに気づけるよう援助していきたい。 自然の中での五感を感じる経験が心を豊かにしていくので、この時期の心身の発達を促していけるよう、安全にも配慮して身近な環境を整えていきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子どもの自我の育ちを見守りつつ相手の気持ちや関わりに気づけるような援助を心掛けている。トラブルが起きた時は事態を抑えることに優先するのではなくお互いの思いを大切にしているので、園児一人ひとりの良さを認めて信頼関係を深くしていきたい。また、不安になったり戸惑ったりする時もしっかりと心に寄り添った対応ができるように職員間で再度共通理解を図ってきたい。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	子ども主体の保育を行う中で、一人一人がのびのびと心と体の成長をしていると感じられる。子ども本来の姿を認めることでたくさんの安心感を与えられるよう努めていきたい。また、ユニークな発想ができるように道具や用具が十分にすることの必要性に改めて気付くことができた。しかし、たくさんあるからと1つ1つを大切に使うという気持ちが軽減されていくという傾向もあるので私達保育者の言葉かけなどで「物を大切にする」という事に気づけるように導いていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	子ども一人一人の気持ちや行動を受け止めて、しっかり寄り添っていくことが大切だと感じた。同じ活動でも発達の過程が違い個人差があるので、その子にあった構成を考えていくことも必要である。そのため、保育者は子どもが発した言葉に対して否定から入らず、一緒に共感したり園児が意欲的に取り組めるような声掛けをしていく事に配慮したい。また園児の「自分でやってみよう」という、やる気に満ちた気持ちが持てるよう、保育の環境や活動を提供できるようにしていきたい。
第3章 健康及び安全	季節の野菜を育てたり、育てた野菜でクッキングを行ったり、園庭に実る季節の果実の収穫やお芋ほりなど食に関する活動で、食べることの楽しさを味わいながら食への関心が深まっていると感じている。今後も活動を展開していきたい。 施設の安全性や災害時の備えも定期的な訓練などで対策がとられ、子どもたちにも身につけていると感じられる。しかし、地域を含む災害など大きな災害への対策は、地域の方と連携をとりながら避難ができるのか具体的なプランを考えるなど、より深く考えていく必要があると感じた。
第4章 子育ての支援	1日の様子を写真や動画を使って伝えられるように整え、送迎の際には保育室に入っていたかなど、日々の園での様子などを伝えることで信頼関係は徐々に作りあげられていると感じている。成長を共に喜び不安や悩みに寄り添えるよう、守秘義務を前提として保護者を受容するよう努めていきたい。未就園の親子が気軽に遊びに来れるように、毎月、楽しいイベントを企画しており簡単にネットで予約ができる。イベントの日は保健師も参加し、気軽に相談できる環境づくりをしていきたい。
第5章 職員の資質向上	研修を受けることで、自分の保育を振り返るきっかけになるので、定期的に研修を行うことの大切さを実感した。 研修を受けることで一人ひとりの保育の質の向上にはつながるが、全体的な保育の質の向上を考えると、全職員同じ研修が受けられるように年間を通して計画するなど工夫が必要と考えられる。また、研修内容の核の部分を職員間で共通理解できるように、研修後の報告をミーティングで行ったり、研修報告所を資料を付けて回覧することも行っていきたい。
総合	安定した園生活を送れるよう子どもとの関わり、その保護者との関わりも大切にしていきたい。子どもは自分の存在を受け入れられて本来の自分の素の姿を発揮できるようになるので、温かい触れ合いの時間を増やし、自分らしさを発揮できるように一人ひとりをしっかり受け止めていきたい。園児の心のよりどころになるとともに、気持ちに寄り添い、園児一人ひとりの信頼関係を大切にしながら関わるのが重要である。個々の保育を振り返り、大切なお子様をお預かりしているという意識を更に高め、より良い保育を目指していきたい。また、環境構成を整えながら様々な活動に取り組み、職員間で連携を図り、より良くなるよう改善をしていながら、日々の「保育の質の向上」に励んでいきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.27
「3歳未満児保育」	32	4.31
「3歳以上児保育」	53	4.02
「教育保育の配慮事項」	16	3.81
「健康・安全」	28	3.75
「子育ての支援」	13	4.08
「職員の資質向上」	9	3.78
計	166	4.02

データグラフ

